

令和4年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報告書

令和4年6月

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び高等学校等の教科指導に活用できるよう、その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして、一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば、入学者選抜のための問題であるとともに、中学校等の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

令和4年2月21日に実施した学力検査に基づく入学者選抜には、約40,000人もの生徒等が受検しました。本調査報告書では、学力検査結果を分析し、各教科の平均点、得点分布及び各問の正答率や、正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

中学校等においては、国語・数学・英語・社会・理科の各教科のどのような分野や領域の力が身に付いているのか、また、苦手としているのかなど、東京都の中学生の学習状況の実態を表した調査結果と自校の生徒の学習状況との比較により、成果と課題の把握や、生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

また、高等学校においては、調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や、生徒の学習状況の実態に基づいた指導計画の立案、学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

区市町村教育委員会、中学校等及び高等学校におかれましては、本調査報告書に掲載した内容等を、生徒の学習状況の実態把握や授業のねらいの設定など、生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

令和4年6月

東京都教育委員会

目 次

I	令和4年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針	1
II	調査目的	1
III	調査内容	1
IV	調査結果	
1	概要	1
(1)	教科別受検者数	
(2)	教科別実施校数	
(3)	教科別平均点	
2	各教科	2
(1)	国語	2
(2)	数学	4
(3)	英語	6
(4)	社会	8
(5)	理科	10

参考資料

1	令和4年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集)	12
2	令和4年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集) 正答表	26

I 令和4年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。

II 調査目的

- 1 上記Iの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について、その学力の実態を把握する。
- 2 各教科・各問の正答及び誤答を分析し、その結果を中学校、義務教育学校及び高等学校に提供することで、各学校における教科指導の改善に資する。

III 調査内容

令和4年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（令和4年2月21日実施）において、全日制高等学校を志願し、共通問題により学力検査を受検した者について、次の調査を実施した。

- 1 教科別の平均点及び得点分布
全数調査により、教科別得点状況等を調査した。
- 2 各教科の小問・大問正答率
抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては、信頼度95%を担保するに十分な人数を抽出した。小問正答率は、小問において、抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は、大問において、各小問で抽出した受検者の総数に対する、各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

IV 調査結果

1 概要

(1) 教科別受検者数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
33,919人	33,918人	33,704人	37,950人	37,950人

(2) 教科別実施校数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
152校	152校	151校	161校	161校

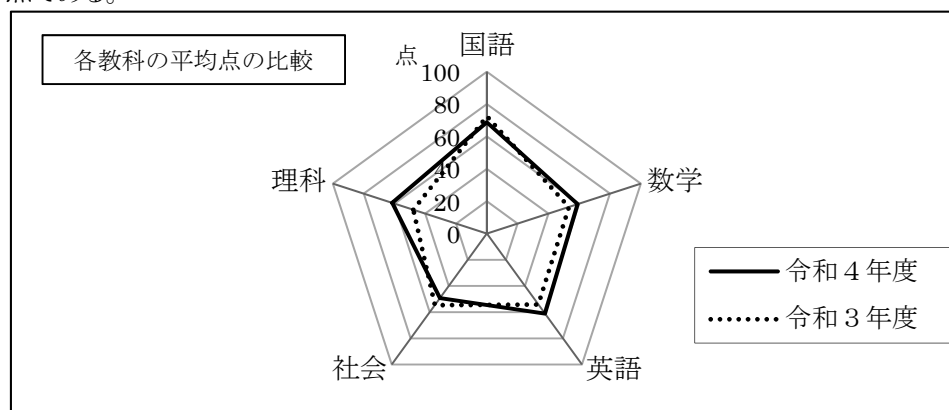
(3) 教科別平均点

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
68.8点 (72.5点)	59.0点 (53.3点)	61.1点 (54.1点)	49.2点 (54.6点)	61.4点 (47.8点)

(注1) 各教科の満点は100点である。

(注2) 記述式の問題や作図の問題では、各学校で部分点を与えるなど採点上の配慮を行っている。

(注3) 教科別平均点欄の（ ）内の数字は、令和3年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



2 各教科

(1) 国語

ア 出題の方針

国語の特質に関する理解や伝え合う力、思考力、想像力など国語で正確に理解し適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

1 漢字を正しく読む能力をみる。

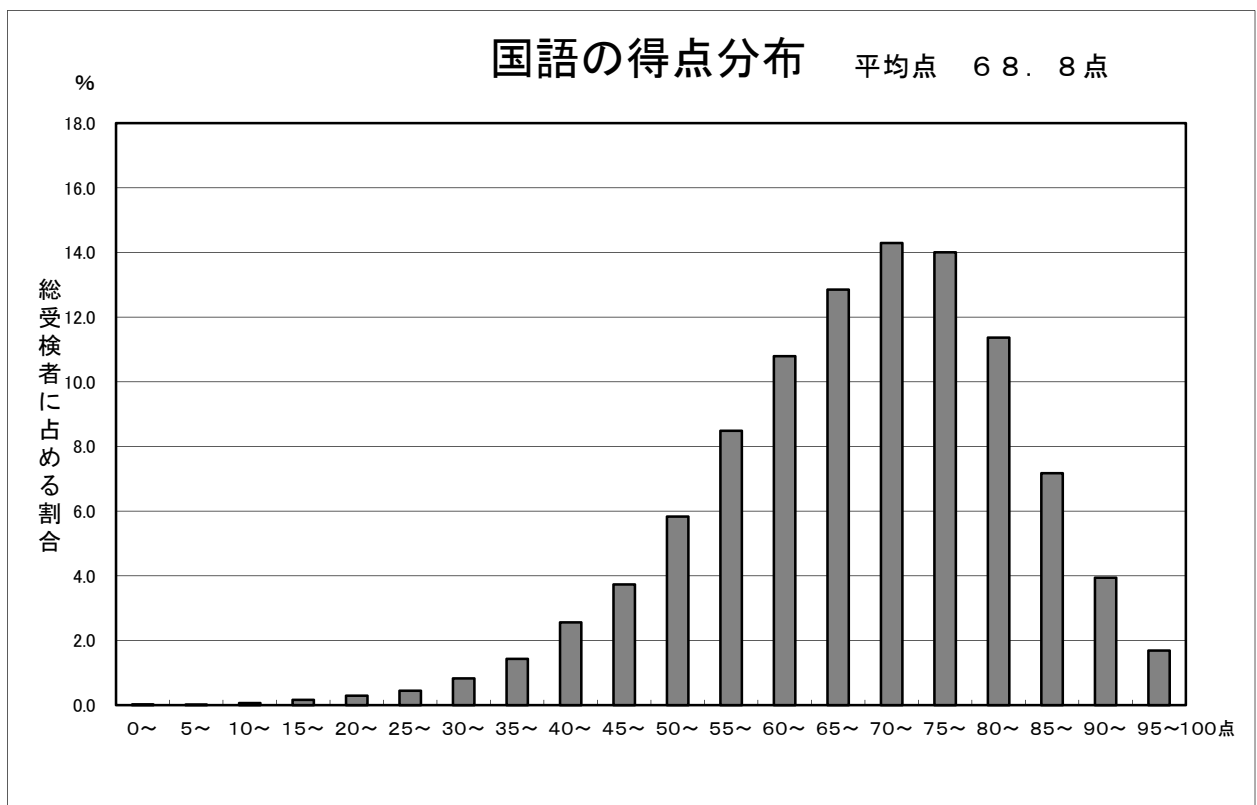
2 漢字を正しく書く能力をみる。

3 文学的な文章を読み、叙述や描写などに即して、語句や文の意味、登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる。

4 説明的な文章を読み、叙述や文脈などに即して、語句や文の意味、文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに、考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら、相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。

5 対談を含め、古典を引用した複数の資料を読み、発言の意図や役割を理解することを通して伝え合う力をみるとともに、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関する知識をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は68.8点となり、昨年度より3.7点下降した。

今年度は、分布のピークが昨年度の80点～84点から70点～74点に移り、85点以上の受検者の割合が23.8%から12.8%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 漢字を正しく読む能力をみる問題とした。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる問題とした。
- 3 農家での暮らしを舞台として、主人公と曾祖父母のやり取りが描かれた小説を読み、表現の特徴や登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる問題とした。
- 4 人間の考え方について論じた文章を読み、文脈に即して内容を正確に読み取る問題、文脈から段落の役割を捉える問題、筆者の主張を正しく読み取る能力をみる問題、本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に分かりやすく伝える力を見る問題とした。
- 5 西行と詞書に関する対談・解説文及び古典の一部を読み、要旨を的確に捉える問題、話の進め方の特徴を読み取る問題、複数の文章から情報を整理する問題、語句の働きや意味を答える問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 (4)「えんこつ」と表記する誤答が多かった。
- 2 (4)「週間」と書く誤答が多かった。
- 3 [問5]では、「イ」という誤答が多かった。これは、周囲の大人たちの様子やこれまでの出来事を振り返る場面において、主人公が父の行動に対する見方を変えようとしたわけについて、主人公の心情などの描写を基に丁寧に読み取る力が十分ではなかったためと考えられる。
- 4 [問2]では、「ア」という誤答が多かった。これは、「新しく発想する」という「脱既存概念の考え方」が「既存概念による考え方」と一線を画していることを叙述や文脈からの的確に捉えることができなかつたためと考えられる。また、[問5]では、自分の考えの根拠として、体験や見聞を挙げているものの、「コンピュータ化できない」というテーマの一部分だけに言及した解答が目立った。これは、文章全体を通して表現されている筆者の主張を十分に理解できなかったためと考えられる。
- 5 [問3]では、「ア」という誤答が多かった。これは、西行の詞書の特徴について述べられた複数の文章から、情報を整理した上で思考することができなかつたためと考えられる。また、[問4]では、「エ」という誤答が多かった。これは、対談で述べられている「独立した旅行記みたい」という表現の指し示す内容について、前に述べられている発言と関連付けて理解することができなかつたためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	94.2%	93.8%
	(2)	2	97.6%	
	(3)	2	98.9%	
	(4)	2	80.8%	
	(5)	2	97.4%	
2	(1)	2	84.8%	69.6%
	(2)	2	78.5%	
	(3)	2	70.5%	
	(4)	2	57.0%	
	(5)	2	57.2%	
3	※ [問1]	5	89.0%	85.5%
	※ [問2]	5	76.0%	
	※ [問3]	5	94.7%	
	※ [問4]	5	94.2%	
	※ [問5]	5	73.4%	
4	※ [問1]	5	44.6%	☆49.0%
	※ [問2]	5	29.1%	
	※ [問3]	5	40.4%	
	※ [問4]	5	59.4%	
	[問5]	10	☆71.4%	
5	※ [問1]	5	64.3%	55.8%
	※ [問2]	5	57.0%	
	※ [問3]	5	38.8%	
	※ [問4]	5	35.7%	
	※ [問5]	5	83.2%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合
(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率から、漢字についての知識はおおむね身に付いていると考えるが、2の誤答の内容から、語彙についての理解は十分ではないと考えられる。漢字の構成要素や語句の意味を確認するとともに、用例を作成する学習や、多様な文章や表現に触れ、未知の語彙を対話や文章の中で活用する学習を行うなど、漢字の知識及び技能を着実に習得できるよう指導の工夫が必要である。
- (イ) 3の[問5]の正答率から、登場人物の心情や心情を生む要因について、描写を基に捉える力が十分ではないと考えられる。文学的な文章の学習において、登場人物の会話の内容、話の展開、情景等の描写に着目し、叙述を基に登場人物の言動の意味や理由、心情やその変化について考える学習を行うなど、指導の工夫が必要である。
- (ウ) 4の[問2]の正答率から、叙述や文脈に即して、筆者の意図を捉える力が十分ではないと考えられる。説明的な文章の学習において、筆者が用いている言葉の意味を調べ、文脈に即して理解する学習や、段落の内容を整理して各段落の役割や関係をまとめ、筆者の主張を正確に捉える学習を行うなど、指導の工夫が必要である。
- (エ) 5の[問4]の正答率から、文章全体の大意を捉える力が十分ではないと考えられる。日頃の授業において、筆者の主張の要点を示す語句を抜き出してまとめる学習や、対談や文章を要約する学習を行うなど、指導の工夫が必要である。

(2) 数学

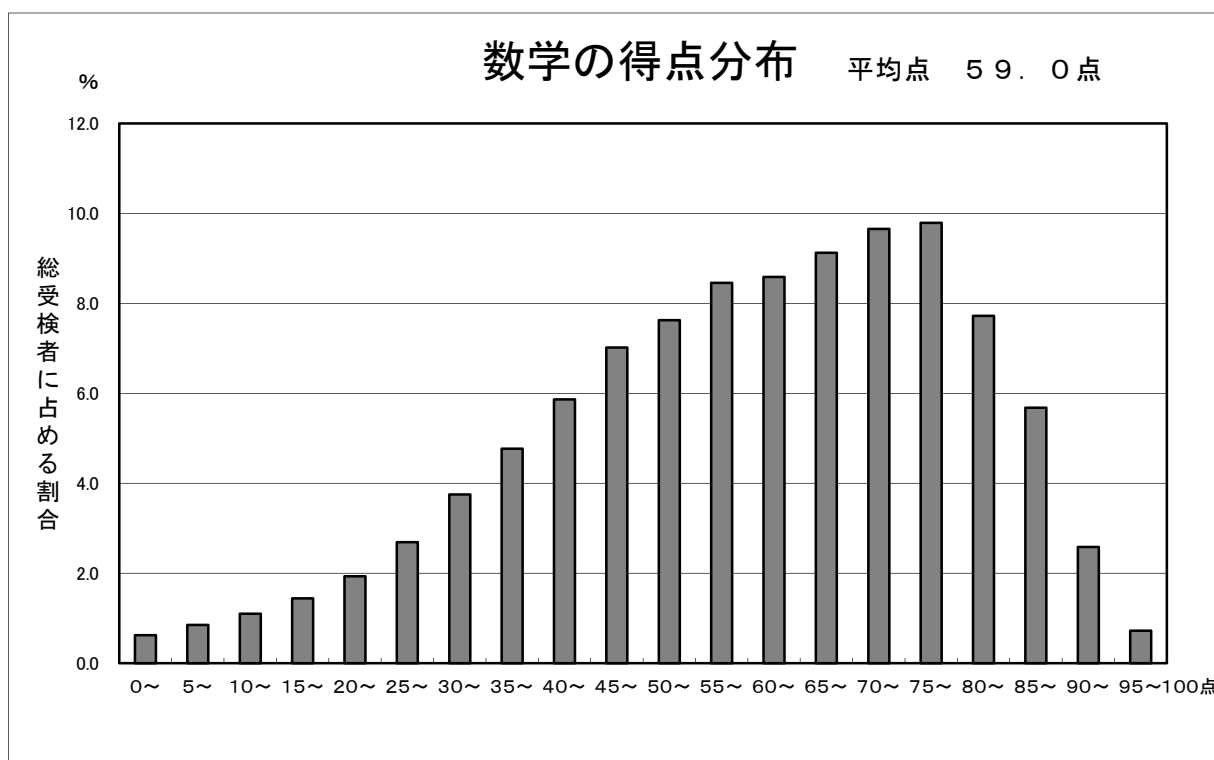
ア 出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみるとともに、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等をみる。

イ 各問のねらい

- 1 数と式，図形，データの活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみる。
- 2 数学的活動の場面をもとに，数学的な見方・考え方を働かせ，事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 3 関数についての知識及び技能をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。
- 4 平面図形についての知識及び技能をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 5 空間図形についての知識及び技能をみるとともに，図形の性質や関係を直観的に捉え，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は59.0点となり，昨年度より5.7点上昇した。

今年度は，分布のピークが昨年度の55点～59点から75点～79点に移り，80点以上の受検者の割合が6.1%から16.7%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 計算問題や作図など基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみる問題とした。
- 2 2桁や3桁の整数を題材として、数量の関係や法則について、数理的に考察し文字を用いて処理する能力や推論の過程を的確に表現する能力をみる問題とした。
- 3 関数 $y=ax^2$ を題材として、変域を求める問題、2点を通る直線の式を求める問題、座標平面上の線分の長さについて考察し処理する能力をみる問題とした。
- 4 1辺を共有する2つの正三角形を題材として、文字を用いた式で角の大きさを表す問題、三角形の合同を証明する問題、相似な三角形を見いだすなどして2つの三角形の面積の比を求める問題とした。
- 5 直方体を題材として、空間図形における線分と面の位置関係に着目し、空間の中にできる四角形の周の長さを求める問題、直方体の中にできる立体の体積を求める問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 [問8]では、「68度」という誤答が多かった。これは、求める角の対頂角が中心角であると誤認したためと考えられる。
[問9]では、 $\angle C$ の二等分線を作図する誤答が多かった。これは、2つの三角形の面積が等しくなることと、三角形の底辺の中点を作図することを関連付けて考えることができなかつたためと考えられる。
- 2 [問2]では、部分正答を含めて正答率が40.5%、無答率は46.3%であった。これは3桁の整数Xや各位の数を操作して得られる整数Yを文字を用いて正しく表すこと、 $X-Y$ の値が11の倍数になる理由を根拠に基づいて示すこと、説明の見通しを立てることができなかつたためと考えられる。
- 3 [問3]では、誤答率が41.2%、無答率が44.1%であった。これは、条件を満たす点の座標を、文字を用いた式で表し、その文字を用いて線分PRと線分RQの長さの関係を表し、処理することができなかつたためと考えられる。
- 4 [問2]②では、誤答率が65.9%、無答率が31.8%であった。これは、与えられた図から解答を導くために必要となる相似な図形を見いだすなどして、 $\triangle BRP$ の面積と $\triangle ABC$ の面積の比を考察する見通しを立てることや、処理することができなかつたためと考えられる。
- 5 [問1]では、誤答率が50.8%、無答率が19.3%であった。これは、空間の中にできる四角形の形を捉えることができず、各辺の長さを求めることができなかつたためと考えられる。
[問2]では、誤答率が56.0%、無答率が42.8%であった。これは、直方体の中にできる立体を捉えることができず、高さ等を求めることができなかつたためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
1	[問1]	5	85.3%	☆68.3%	
	[問2]	5	70.7%		
	[問3]	5	78.7%		
	[問4]	5	87.3%		
	[問5]	5	88.6%		
	[問6]	5	58.4%		
	[問7]	5	62.6%		
	[問8]	5	45.6%		
	[問9]	6	☆37.0%		
2	[問1]	5	52.7%	☆46.6%	
	[問2]	7	☆40.5%		
3	※ [問1]	5	67.7%	50.6%	
	※ [問2]	5	69.4%		
	[問3]	5	14.7%		
4	※ [問1]	5	62.2%	☆39.8%	
	[問2]	①	7		☆55.0%
		②	5		2.3%
5	[問1]	5	29.9%	15.6%	
	[問2]	5	1.2%		

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率から、計算問題等の基礎的・基本的な事項についての知識及び技能についてはおおむね定着している。しかし、1 [問8] や4 [問2] ②の正答率の低さから、図形に関する基礎的・基本的な事項を活用したり、それらを組み合わせる考察したりする力が十分ではない。条件を適切に読み取ることや、与えられた図形の中の合同な図形や相似な図形に着目して、既習事項に関連付けて考える場面を設けた指導の充実が必要である。
- (イ) 2 [問2] 及び4 [問2] ①の正答率から、推論の過程を的確に表現する力を育むことが課題である。問題文から条件を読み取り立式する指導、推論の過程を根拠に基づき相手に分かりやすく伝える指導の充実が必要である。また、考えたことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を通して、正確に、分かりやすく表現する能力を一層高める指導が必要である。
- (ウ) 5の正答率から、図形の性質や関係を直観的に捉え、空間内にある直線と平面の位置関係や、立体の中にできる平面等を正確に把握する力が十分ではない。実際に立体を作ることや、立体の見取図、展開図、投影図を用いてその図形のもつ性質を読み取ることなどを通して、空間における図形の位置関係を捉えたり、空間図形を平面図形に帰着させて考えたりする指導の充実が必要である。

(3) 英語

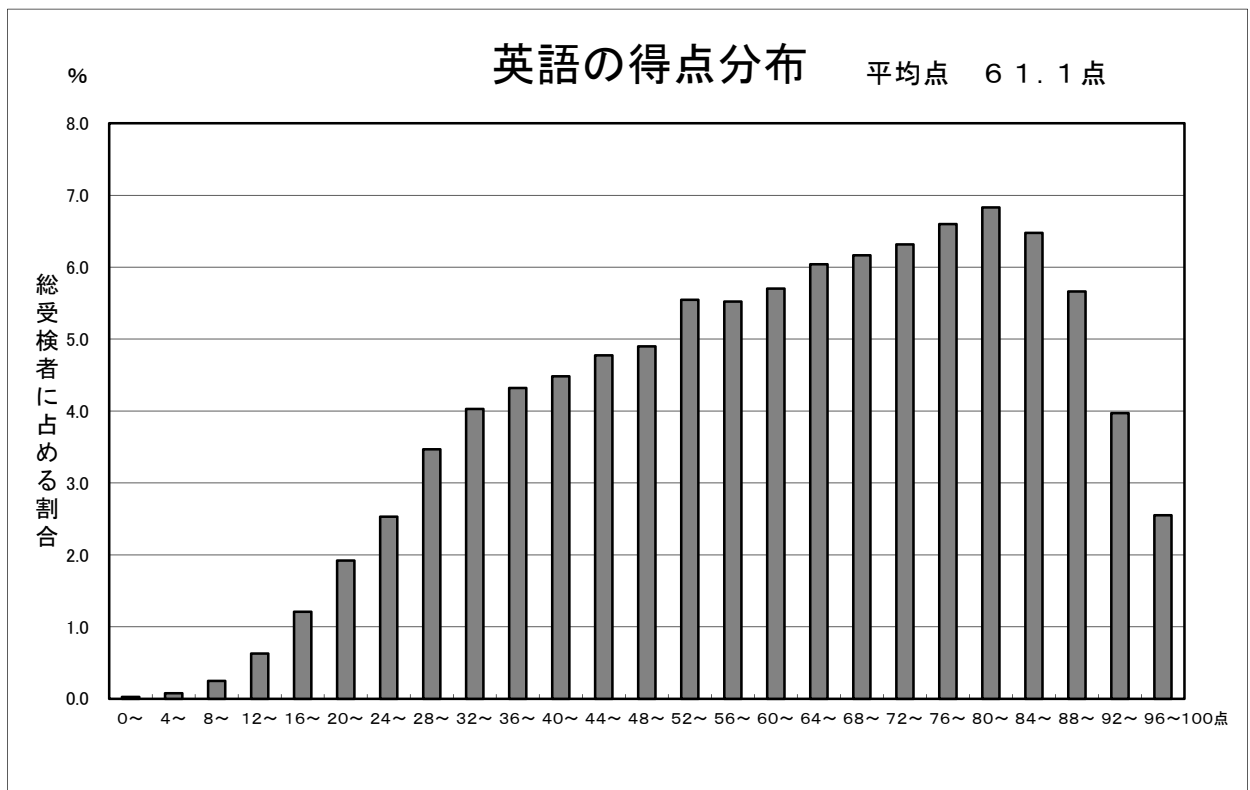
ア 出題の方針

簡単な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解するとともに、自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 自然な口調で話される英語を聞いて、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。
- 2 英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに、必要な情報を得たり、自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。
- 3 まとまりのある対話文を読み、その流れや大切な部分を把握する能力をみる。
- 4 物語文を読み、そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は61.1点となり、昨年度より7.0点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の40点~43点から80点~83点に移り、80点以上の受検者の割合が15.9%から25.6%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

① 午後の天気について話し合う場面や、カナダの中学生が日本の中学生とのオンライン交流で行ったスピーチなどを聞き、具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。

② 高校生と留学生が、授業で発表するために作成した資料や、海外のある大学のオンライン講義の予定表を見ながら話し合う場面を題材として、英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみる問題とした。

また、帰国した留学生からのEメールに返信する場面を設定し、主題である「町に公園があることの良い点」について、自分の考えやそれを取り上げた理由を英語で表現する能力をみる問題とした。

③ 高校生と留学生が、目標を達成するために取り組んでいることや取り組み方について話をする中で、大きな目標を達成するためには、小さな目標の達成を積み重ねることが大切だと気付くという内容の対話文を読み、対話の流れや登場人物の考えを把握する能力をみる問題とした。

④ 美化委員会の委員長となった主人公は、自身の過去の経験から、地域清掃に力を入れようと提案するが、他の委員から反対される。前委員長のアドバイスや自己の振り返りを通して、他人の意見を聞くことや協働することの重要さに気付くという内容の物語文を読み、本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する能力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

① Bの〈Question 2〉では、“She likes popular Japanese movies.”や“*She thinks it is interesting.*”などとする誤答が多かった。これは、具体的な質問の内容を細部まで聞き取れず、解答すべき内容を英語で正しく書き表すことができなかつたためと考えられる。

② 1では、「ア」という誤答が多かった。これは、二人の対話とグラフの関係を適切に理解し、公園の役割に関する項目を選ぶことができなかつたためと考えられる。また、3(2)では、「町に公園があることの良い点」という主題を正確に理解できなかつたり、自分の考えを英語で正しく表現することができなかつたりした解答が多く見られた。

③ 〔問2〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、「ウ」と「エ」の表す内容を十分に理解して区別することや、本文から登場人物の一人が既に目標を見いだしているかどうかを正しく把握することが十分ではなかつたためと考えられる。

④ 〔問2〕では、「イ」の後に続く内容を「ア」と取り違える誤答が多かった。また、〔問3〕(2)では、「ア」という誤答が多かった。これは、本文のあらすじを正確に捉えたり、本文と同じ内容を異なる語彙や表現を用いて表した選択肢を正しく理解したりすることが十分ではなかつたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

(ア) ①及び②の正答率から、まとまりのある文章を聞いたり読んだりする際、コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、必要な情報、概要、要点を捉える力を高める指導の充実が必要である。また、学習した表現を活用し、聞いたり読んだりしたことについて自分の考え等を英語で表現するなど、「聞くこと」と「書くこと」、「読むこと」と「書くこと」等の技能を統合した言語活動に取り組ませることにより、既習事項の定着を図る指導の充実が必要である。

(イ) ③及び④の正答率から、まとまりのある文章を読む際に、対話の流れや登場人物の考えを把握する力、本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する力を高める指導の充実が必要である。また、様々な文章に触れることを通して、幅広い表現の定着を図る指導の充実が必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
①	※A	〈対話文1〉	4	61.0%	☆68.9%
		〈対話文2〉	4	89.7%	
		〈対話文3〉	4	67.0%	
	B	※〈Question 1〉	4	87.5%	
		〈Question 2〉	4	☆39.1%	
②	※1		4	49.4%	☆55.5%
	※2		4	60.9%	
	3	※(1)	4	66.8%	
		(2)	12	☆44.7%	
③	※〔問1〕		4	58.4%	60.2%
	※〔問2〕		4	42.3%	
	※〔問3〕		4	55.1%	
	※〔問4〕		4	85.7%	
	※〔問5〕		4	68.9%	
	※〔問6〕		4	59.7%	
	※〔問7〕		4	51.4%	
④	※〔問1〕		4	66.3%	45.8%
	〔問2〕		4	29.5%	
	※〔問3〕	(1)	4	58.4%	
		(2)	4	37.7%	
		(3)	4	44.7%	
	※〔問4〕	(1)	4	43.7%	
		(2)	4	40.2%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(4) 社会

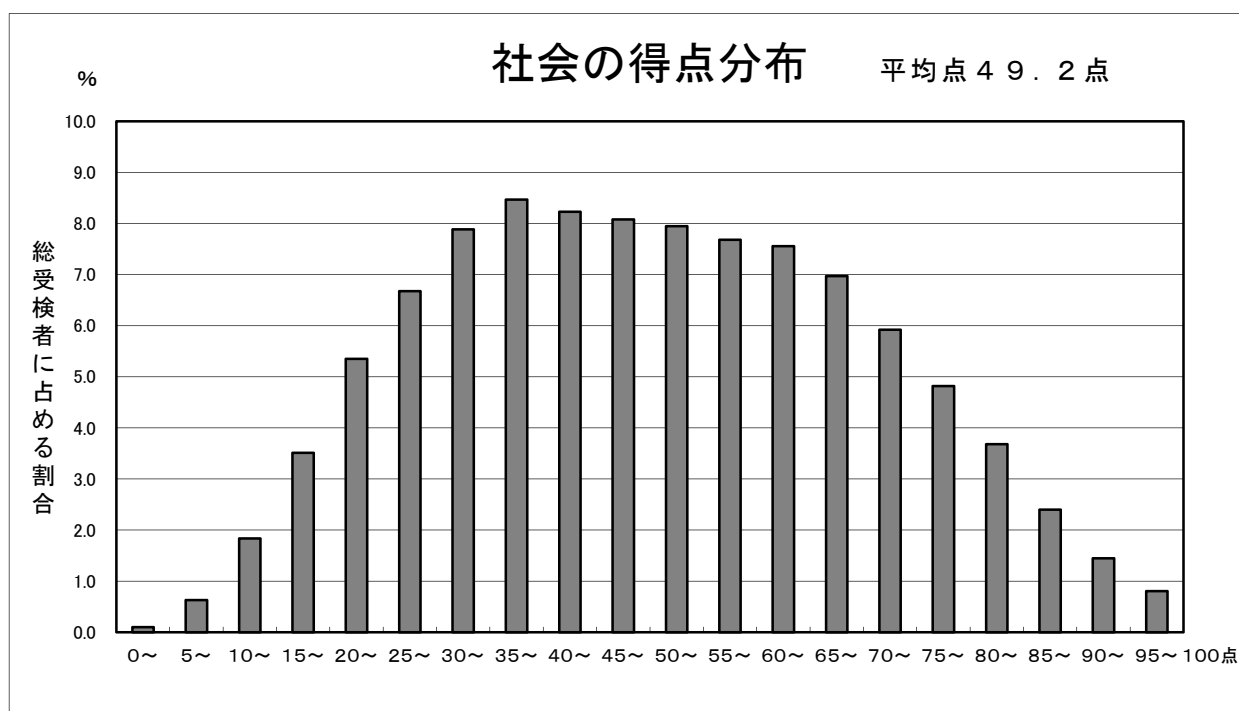
ア 出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。
- 2 世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。
- 3 我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 4 世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察する能力をみる。
- 5 現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治や経済等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 6 現代社会の諸問題について，地図やグラフ等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の3分野から総合的に考察する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は49.2点となり，昨年度より5.4点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度の55点～59点から35点～39点に移り，70点以上の受検者の割合が27.8%から19.0%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 資料から読み取った情報を基にした地形図の読図、我が国の歴史的文化的財の所在地、司法機関の名称について問う問題とした。
- 2 海洋を題材として、世界の海域と都市の様子及び世界の気候、港湾の総取扱貨物量を基にした都市に位置する港湾の様子、我が国との結び付きについて地図や統計等の資料を活用して考察する問題とした。
- 3 工業を題材として、我が国の自然環境と臨海部の工業の様子や、工業地域の産業別製造品出荷額等の変化の様子について考察する能力や、地形図などから読み取れる土地利用の変化とその変化を可能にした要因について適切に表現する能力をみる問題とした。
- 4 計測を題材として、古代から中世にかけての財政基盤を固めるために行った政策の様子、検地における実施命令書が出された時期、計測技術が発達した社会の様子、1965年以降の国際情勢と我が国や東京の環境対策について考察する能力をみる問題とした。
- 5 情報を題材として、表現の自由を規定している日本国憲法の条文、我が国の情報化社会の様子、法律が公布されるまでの過程について考察する能力や、我が国の情報処理・通信に携わる人材の業種別割合の現状について適切に表現する能力をみる問題とした。
- 6 都市を題材として、18世紀から第二次世界大戦後の社会資本の整備の様子、主な国の歴史と首都の位置、主な国の第1位の都市圏と第2位の都市圏の人口の推移について3分野から総合的に考察する能力をみる問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問1〕	5	81.2%	68.0%
	※〔問2〕	5	54.1%	
	※〔問3〕	5	68.6%	
2	※〔問1〕	5	52.9%	36.5%
	※〔問2〕	5	28.3%	
	※〔問3〕	5	28.5%	
3	※〔問1〕	5	25.9%	☆35.6%
	※〔問2〕	5	11.7%	
	〔問3〕	5	☆69.3%	
4	※〔問1〕	5	26.1%	42.7%
	※〔問2〕	5	54.2%	
	※〔問3〕	5	40.9%	
	※〔問4〕	5	49.7%	
5	※〔問1〕	5	42.8%	☆48.0%
	※〔問2〕	5	54.7%	
	〔問3〕	5	☆54.5%	
	※〔問4〕	5	40.3%	
6	※〔問1〕	5	36.7%	30.0%
	※〔問2〕	5	16.7%	
	※〔問3〕	5	36.4%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合
(注2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問2〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、世界遺産に登録されている我が国の主な歴史的文化的財の所在地についての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 2 〔問2〕では、「P-エ」、「S-ア」というPとSの都市を取り違えた誤答が多かった。これは、説明文に示されている港湾の様子と略地図とを結び付けて、都市の位置を特定することができなかつたためと考えられる。
- 3 〔問2〕では、「イ、W」という誤答が多かった。これは、略地図中の位置については、説明文の内容から地域を正しく選択したものの、統計資料については、説明文の内容と産業別の製造品出荷額等の割合とを関連付けることができなかつたためと考えられる。
- 4 〔問1〕では、「ア→イ→ウ→エ」という誤答が多かった。これは、元軍の襲来を退けた時代や、元号が建武に改められて天皇中心の政治が推進された時代の特定ができなかつたこと、古代から中世にかけての財政基盤を固めるための政策についての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 5 〔問4〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、国会における法律の制定過程についての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 6 〔問2〕では、略地図中の位置については「D」、略地図中の首都の位置については「ア」、「ウ」の誤答が多かった。これは、説明文で示されている国の歴史や都市の様子についての理解が十分ではなかったことや、説明文で示されている首都の位置について略地図を活用して読み取ることができなかつたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 地理的分野については、地形図や雨温図の読図、統計資料の読み取りなど基礎的・基本的な地理的技能を身に付ける指導を継続することが必要である。また、地図帳を活用し、複数の地理情報を関連付けて考察し、地域的特色を理解する学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 歴史的分野では、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解することができる指導を継続することが必要である。また、様々な資料を活用し、歴史的事象を多面的・多角的に考察する学習活動の一層の充実が必要である。
- (ウ) 公民的分野については、日本国憲法の基本的な考えや、政治や経済の諸制度を成り立たせている考え方や仕組みについて、多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉える学習活動の一層の充実が必要である。
- (エ) 論述問題については、社会的事象から課題を見だし、多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付ける学習活動の一層の充実が必要である。

(5) 理科

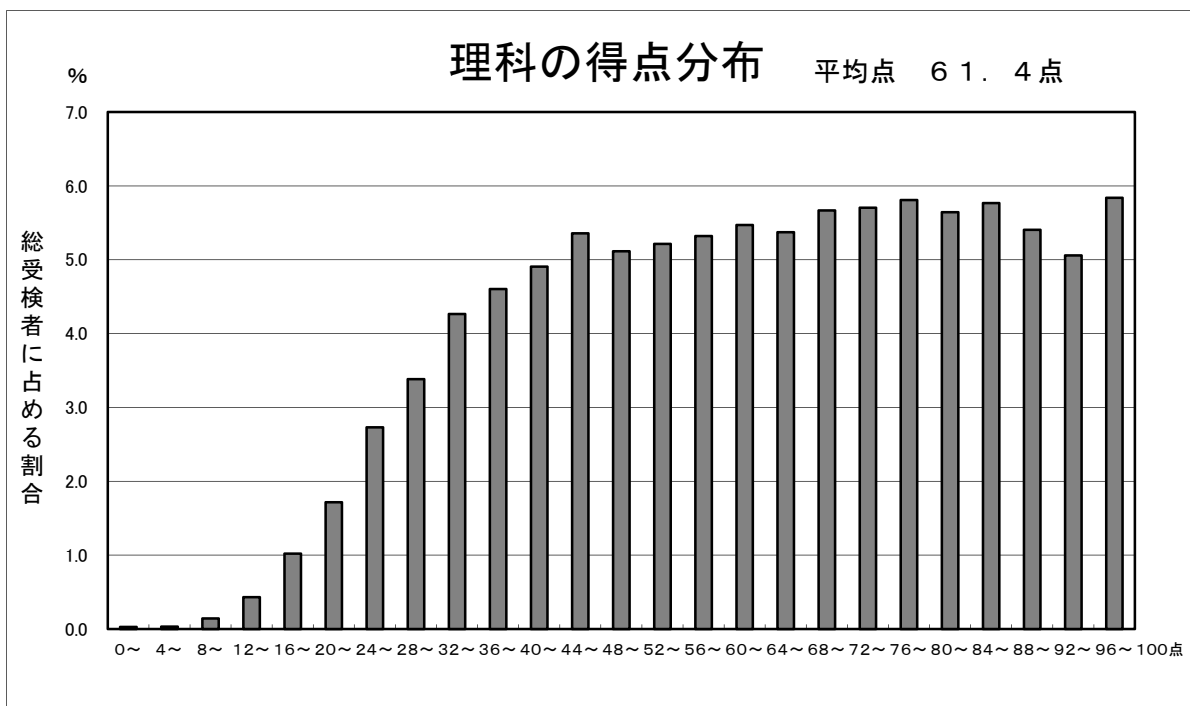
ア 出題の方針

自然の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、科学的に探究する活動を通して思考力、判断力、表現力等をみる。

イ 各問のねらい

- 1 第1分野（「エネルギー」や「粒子」）と第2分野（「生命」や「地球」）の各領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみる。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる。
- 3 「地球」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、観察を通して科学的な思考力、判断力をみる。
- 4 「生命」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、観察、実験を通して科学的な思考力、判断力をみる。
- 5 「粒子」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、実験を通して科学的な思考力、判断力、表現力をみる。
- 6 「エネルギー」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、実験を通して科学的な思考力、判断力、表現力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は61.4点となり、昨年度より13.6点上昇した。

今年度は、ピークが昨年度の28~31点から96~100点に移り、80点以上の受検者の割合は9.6%から27.7%に上昇した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 各領域における基礎的・基本的な知識及び技能をみる問題とした。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる問題とした。
- 3 地層の観察記録を通して、大地の成り立ちと変化についての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる問題とした。
- 4 植物のつくりの観察と、遺伝の規則性を調べる実験を通して、親の形質が子に伝わる時の規則性についての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる問題とした。
- 5 水溶液中のイオンの性質を調べる実験を通して、酸とアルカリの特性や中和反応に関する知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力、表現力をみる問題とした。
- 6 物体の運動に関する実験を通して、運動の規則性や力学的エネルギーの保存についての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力、表現力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問3〕は、「イ」という誤答が多かった。これは、水中から空気中へ進む光の屈折に関して、屈折角と入射角についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 2 〔問2〕では、「ア」という誤答が多かった。これは、混合物と化合物についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 3 〔問4〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、X点及びY点の標高と柱状図とを関連付け、地層の標高を読み取る力が十分でなかったためと考えられる。
- 4 〔問3〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、子の代と孫の代を交配してできた形質の異なる個体の数の比について思考する力が十分でなかったためと考えられる。
- 5 〔問3〕では、酸の性質をもつ物質の化学式を「 H^+ 」、アルカリの性質をもつ物質の化学式を「 OH^- 」とする誤答が多かった。これは、酸及びアルカリに関して、物質の化学式と物質に含まれるイオンについての理解と、化学反応式の作り方の理解が十分でなかったためと考えられる。
- 6 〔問2〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、等加速度運動している物体に働く力についての理解が十分でなかったためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1 〔問3〕の正答率から、光が異なる物質どうしの境界へ進む場合について、実験結果と習得した知識とを関連付けて考察することに課題があると考えられる。探究の過程を通して検証計画を立案し、観察・実験の結果を分析して解釈する学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 各領域の基礎的・基本的事項の知識及び技能についてはおおむね定着しているが、3 〔問4〕と 5 〔問4〕の正答率から、観察・実験の結果から多角的、統合的に考察することに課題があると考えられる。引き続き、基礎的・基本的事項の知識及び技能の定着を図るとともに、既習事項や観察・実験の結果、複数の事物・現象等を関連付けて考察する学習活動の一層の充実が必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問1〕	4	64.0%	51.6%
	※〔問2〕	4	52.1%	
	※〔問3〕	4	44.1%	
	※〔問4〕	4	45.8%	
	※〔問5〕	4	52.2%	
2	※〔問1〕	4	44.0%	52.9%
	※〔問2〕	4	39.6%	
	※〔問3〕	4	72.6%	
	※〔問4〕	4	55.4%	
3	※〔問1〕	4	42.9%	48.9%
	※〔問2〕	4	63.1%	
	※〔問3〕	4	51.8%	
	※〔問4〕	4	37.8%	
4	※〔問1〕	4	71.0%	59.8%
	※〔問2〕	4	55.4%	
	※〔問3〕	4	44.0%	
	※〔問4〕	4	68.6%	
5	※〔問1〕	4	67.3%	47.3%
	※〔問2〕	4	41.3%	
	〔問3〕	4	39.6%	
	※〔問4〕	4	40.9%	
6	※〔問1〕	4	68.1%	☆59.1%
	※〔問2〕	4	46.8%	
	〔問3〕	4	☆64.9%	
	※〔問4〕	4	56.4%	
(注1) ☆は部分正答も含めた割合				
(注2) ※は記号選択式の問題				